

令和7年度 地域連携推進会議議事録

部署	共同生活援助 ここいるcocoiru	氏名	佐藤真美
(1)概要			
日 時	令和7年10月26日(日) 14:00～15:30		
場 所	ここいる リビング		
出席者	中澤義信(元社協)・阿部忠幸(元前橋市議長)・茶木久義(区長)・岩井勇気(有識者)・清水賢明(GH管理者)・星野真日・美由紀(利用者・家族)・水澤厚樹(家族)・朝倉周平(利用者)・大竹京子・佐藤真美・深澤美智子・駒村光栄・斎藤由紀(敬称略)		
(2)議事			
議題			
1. 会議の目的	2. 自己紹介	3. 法人施設概要・支援方針	4. 地域連携推進委員会の意義の確認
5. 地域住民、関係者との意見交換、改善、要望等	6. 施設内見学	7. 今後の連携について	
議事内容			
1.会議の目的	利用者が地域の一員として安心して生活できるような関係性を構築し地域の方々に、ここいるの役割や利用者の生活を理解していただくことで地域に開かれた施設を目指していくことの重要性及び、第三者や外部の目を入れることでサービスの質の向上・改善に繋げる機会となること。令和7年度からこの会議が義務化され会議を通して地域との協働をすることで利用者の権利擁護、意思決定などより良い支援体制を築いていくために重要な役割をはたしていくこと。		
2.自己紹介	参加者全員各自自己紹介		
3.法人施設概要・支援方針	2004年に法人設立し2018年4月から共同生活援助ここいるcocoiruの事業を開始。法人として援助が必要な心身障害児・者その家族、その他支援が必要とする人々に対して相互扶助の精神にのっとり、地域に根ざした介護サービス及び必要な援助を提供し、人々が健やかに暮らせる地域づくりと福祉に寄与することを目的としている。利用者一人ひとりに寄り添いQOLの向上、子供の健全育成・療育の活動、障害があっても楽しく安全に毎日が送れるように支援をしていく事を目指している。		
4.地域連携推進委員会の意義の確認	GHや施設などの居住系サービスにおいて地域の関係者を含む外部の目を入れることで事業運営の透明性を高め支援の質を確保することを目的とする。		

(1)利用者と地域の関係づくり

利用者が地域の一員として安心して暮らせるよう、地域住民との顔が見える関係性の確保。

地域行事への参加や日常的な交流の促進。

(2)地域住民への理解

地域の人々に施設利用者の生活を知つてもらうことで障害者施設の理解を深める。

施設が地域に開かれた存在になることを目指している。

(3)サービスの透明性と質の確保

外部の目を入れることで閉鎖的になりがちな施設運営の透明性を高める。

会議を通して施設内容や運営状況を共有し改善に繋げる。

(4)利用者の権利擁護

虐待や事故の防止、利用者の意思の尊重など、権利擁護の観点も重要な役割を担う。

(5)事業所の運営支援

地域との連携が深まることで、事業所の運営が円滑になり、社会資源の活用も進む。

このようなことから地域連携推進会議は障害者が地域で安心して暮らすための仕組みに欠かせない制度となる。

5.地域住民、関係者との意見交換、改善提案・要望、課題共有

【避難訓練はどのような体制でどのようにしているのか】

毎月1回避難訓練の実施、年に2回消防署に実施報告し、そのうち1回は消防署に来所していただき訓練を実施している。

不審者対応訓練も実施している。

【表札について】

大きな看板がないのは周知していないのでは→

地域住民やご家族の要望もあり現在大きな看板の設置は見合せている。今後は地域の方々の理解を深めながら対応について検討していく。

【緊急時の対応について】

行政には報告をしているのか→

緊急時の対応を円滑に行うため、行政には毎月利用者名簿(区分を含む)を提出しているが、区長や地域関係者にもGHの利用者数や生活状況の共有を検討していく。

【利用者の生活について】

・食事は手作りをし、アレルギー等に考慮し添加物ができるだけ控えた良質な食材を選び、安心して食事を楽しめるように工夫している。

・利用者全員が毎日入浴し、清潔保持に努めている。

・居室、リビング、浴室、キッチンその他毎日、消臭消毒機器等を活用し清掃を徹底している。

・洋服、下着、パジャマ等毎日の洗濯。乾燥は除湿乾燥機を活用し花粉症等のアレルギー対応をしている。

【地域交流について】

地域のお祭りや運動会への参加、有価資源ごみの排出など、身近な活動を通じ地域住民の方々との

交流を少しづつもっている。

6.施設内見学

各居室、浴室、トイレ等の設備、事務所、備蓄品の確認

7.今後の連携について

多動や奇声など障がいの特性を持つ利用者もおり、地域の方々が戸惑われたりすることがあると思われるが、身近なところから一步ずつ交流を重ねて理解をいただけるよう努めていく。

今後も地域行事や日常的な関わりを通して、地域の皆様にここいるを知っていただき、相互の理解と連携をすすめていきたい。また、緊急時の対応を円滑に行うために、地域防災体制の中で、GHとしてどのように連携ができるかを検討し、必要に応じて情報共有や協力体制づくりをすすめていく。